

JSET

JAPAN SOCIETY FOR EDUCATIONAL TECHNOLOGY

No.165

2009-05-31

日本教育工学会ニューズレター

事務局：〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

電話 / FAX : 03-5740-9505 e-mail : 最後のページ参照

日本教育工学会ホームページ <http://www.jset.gr.jp/>

ISSN 1340-9913

告示

下記の要領で第25回通常総会を開催いたします。

正会員には、委任状のハガキを同封しております。当日欠席の場合は、委任状にご記入の上、記名捺印して6月17日（水）までに、ご返送くださいますようお願い申し上げます。

記

1. 日時 2009年6月20日（土）12:00～13:00

2. 会場

東京大学 福武ホール 東京都文京区本郷7-3-1

<http://fukutake.iii.u-tokyo.ac.jp/>

○都営大江戸線 本郷三丁目駅 徒歩7分

○東京メトロ丸ノ内線 本郷三丁目駅 徒歩8分

○東京メトロ千代田線 湯島駅 徒歩20分

○東京メトロ南北線 東大前駅 徒歩10分

3. 総会の議事

第1号議案 2008年度(2008.4.1-2009.3.31)事業報告及び収支決算承認の件

第2号議案 2009年度(2009.4.1-2010.3.31)事業計画案及び収支予算案承認の件

第3号議案 会長、理事、監事、評議員の選任の件

2009年5月9日

日本教育工学会 会長 赤堀侃司

本号目次

総会の告示	1	夏の合宿研究会のご案内(第一報)	8
第1号議案(2008年度事業報告及び収支決算)	2	全国大会のお知らせ(第三報)	9
第2号議案(2009年度事業計画案及び収支予算案)	4	論文誌特集号のご案内(第一報)	10
第3号議案(会長、理事、監事、評議員の選任)	6	FD研修会報告	11
シンポジウムのご案内(最終報)	7	新入会員・学会日誌等	12

第1号議案 2008年度事業報告及び収支決算

2008年度に実施した事業は次のとおりである。(事業費13,505,702円)

(1) 機関誌等 (10,128,645円)

1. 「日本教育工学会論文誌」第32巻1号～4号, 増刊号(ショートレター号), 及び英文誌31巻1・2号(合併号)を会員に配付した。(8,880,615円)
2. 「ニューズレター」No.157～No.163を刊行し, 会員に配付した。(1,248,030円)

(2) 総会

日本教育工学会第24回通常総会を, 東京工業大学で開催(2008/6/21)した。

(3) 大会

日本教育工学会第24回全国大会を, 上越教育大学で開催(2008/10/11-13)した。
また, 「第24回全国大会講演論文集」を刊行し, 申込者に配布した。

(4) 研究会

次の研究会を開催し, 「日本教育工学会研究報告集」JSET08-2～JSET08-5, JSET09-1を申込者に配布した。

- ① 「質的研究と教育工学」研究会 (2008/5/17: 岩手大学)
- ② 「言語力を育む授業づくり」研究会 (2008/7/5: 金沢大学)
- ③ 「学校図書館教育と情報教育」研究会 (2008/9/6: 玉川大学)
- ④ 「教育システム・教材開発のためのICT活用」研究会 (2008/12/20: いわき明星大学)
- ⑤ 「ICTの教育活用と授業設計」研究会 (2009/3/7: 椋山女学園大学)

(5) 企画委員会 (708,630円)

次のシンポジウムおよび研修講座(合宿研究会)を開催した。

- a) シンポジウム(2008/6/21: 東京工業大学)
午前: 「学力向上と学校におけるICT活用の効果」
午後: 「我が国の高等教育の行方と教育工学～経営, 経済, 社会的視点を活かして～」
- b) 研修講座
 - ① 第59回研修講座 夏の合宿研究会 (2008/8/9-10: 秋田大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー)
テーマ: 「教育における“技術”を考える」
 - ② 第60回研修講座 冬の合宿研究会 (2009/2/21-22: 山鹿温泉・旅館細川)
テーマ: 「高等教育現場における教育技術を問う」
 - ③ 第61回研修講座 産学協同セミナー (2009/3/6: 内田洋行東京ショールーム)
テーマ: 「職業的専門性としての教育工学」

(6) 学会情報の提供 (327,602円)

学会ホームページによって, 学会情報を提供した。

(7) 国際連携の促進 (118,750円)

海外の学協会との連携を促進した。

- a) 韓国教育工学会招聘(2008/10/11-13: 上越教育大学)

(8) 学会の情報化対応システムの開発 (2,016,106円)

学会の会計処理システムなどの開発をおこない, 会員へのサービス向上を図った。

(9) 2008年度年度末(2009/3/31)会員総数: 2,550名

内訳: 正会員1977名, 准会員300名, 学生会員251名, 名誉会員2名, 維持会員20機関

第2号議案 2009年度事業計画案及び収支予算案

2009年度に実施する事業計画は次のとおりである。(事業費14,400,000円)

(1) 機関誌等 (11,000,000円)

1. 「日本教育工学会論文誌」第33巻1号～4号, 増刊号(ショートレター号), および英文誌第32巻1・2号(合併号)を会員に配付する。(9,500,000円)
2. 「ニューズレター」No.164～No.170を刊行し, 会員に配付する。(1,500,000円)

(2) 総会

日本教育工学会第25回通常総会を, 東京大学福武ホールで開催(2009/6/20)する。

(3) 大会

日本教育工学会第25回全国大会を, 東京大学で開催(2009/9/19-21)する。
また, 「大会講演論文集」を刊行し, 申込者に配布する。

(4) 研究会

研究会を年5回開催し, 「日本教育工学会研究報告集」JSET09-2～JSET09-5, JSET10-1を申込者に配布する。

- ① 「ICTを活用したFD」研究会 (2009/5/16: 徳島大学)
- ② 「教科教育学と教育工学の交差点」研究会 (2009/7/4: 宮崎大学)
- ③ 「ICT活用の授業研究と教師教育」研究会 (2009/10/24: 信州大学)
- ④ 「FDの組織化・大学の組織改革」研究会 (2009/12/19: 京都外国語大学)
- ⑤ 「教育実践を指向した学習支援システム」研究会 (2010/3/6: 広島大学)

(5) 企画委員会 (800,000円)

企画委員会を開催し, 次のシンポジウムおよび研修講座(合宿研究会)を開催する。

- a) シンポジウム(2009/6/20: 東京大学福武ホール)
午前: 「日本教育工学会重点3領域研究と今後の課題」
午後: 「学力の評価について考える」
- b) 研修講座
 - ① 第62回研修講座 夏の合宿研究会 (2009/8/22-23: 和歌山大学)
 - ② 第63回研修講座 冬の合宿研究会 (期日未定)
 - ③ 第64回研修講座 産学協同セミナー (期日未定)

(6) 学会ホームページの更新 (500,000円)

会員だけでなく一般の人に学会情報を提供するために, 学会のホームページを常時更新する。

(7) セミナーの開催 (300,000円)

FDセミナー等の企画, 開催を行う。

(8) 国際連携の促進 (300,000円)

海外の学協会との連携を促進する。

(9) 学会の情報化対応システム開発 (1,500,000円)

学会の会計処理システムなどの開発をおこない, 会員へのサービス向上を図る。

(10) 学会ロゴの作成 (500,000円)

学会の創立25周年を記念して, 学会ロゴを作成する。

2009年度 収支予算案（自2009.4.1～至2010.3.31）

1. 収入の部

科 目	前年度決算	予 算 額	備 考
1. 会費（①～④の合計）	22,478,500	21,475,000	
① 正会員会費	18,356,000	18,000,000	9,000円×2000名
② 准会員会費	1,279,500	1,100,000	5,500円×200名
③ 学生会員会費	1,543,000	1,375,000	5,500円×250名
④ 維持会員会費	1,300,000	1,000,000	50,000円×20口
2. 入会金	273,000	300,000	1,000円×300名
3. 事業収入（①～②の合計）	6,130,746	5,500,000	
① 論文別刷代	5,029,500	4,500,000	論文誌，英文誌
② 論文誌等販売	1,101,246	1,000,000	委託販売を含む
4. 雑収入	428,242	300,000	セミナー参加費，利息等
5. 積立金取り崩し	0	0	
6. 前年度からの繰越	546,889	422,218	
収 入 合 計	29,857,377	27,997,218	

2. 支出の部

科 目	前年度決算	予 算 額	備 考
1. 管理費（①～⑧の合計）	11,429,457	12,500,000	
① 役員等会議費	125,669	200,000	理事会等開催費
② 事務局費	854,833	1,000,000	事務局経費等
③ 旅費交通費	2,734,590	3,000,000	理事，委員交通費等
④ 通信運搬費	3,661,732	3,800,000	発送費，連絡費等
⑤ 消耗品費	690,888	900,000	文房具，封筒印刷等
⑥ 複写経費	179,624	200,000	事務局コピー等
⑦ 諸謝金	2,996,119	3,200,000	学会事務処理等
⑧ 雑費	186,002	200,000	クレジット手数料，その他
2. 事業費（①～⑦の合計）	13,505,702	14,900,000	
① 機関誌等	10,128,645	11,000,000	
a. 論文誌	8,880,615	9,500,000	論文誌5回/英文誌1回
b. ニュースレター	1,248,030	1,500,000	年7回
② ホームページ管理費	327,602	500,000	更新作業等
③ 企画委員会	708,630	800,000	シンポ，合宿研究会等
④ セミナー開催	205,969	300,000	FDセミナー等
⑤ 国際連携の促進	118,750	300,000	海外の学協会との連携
⑥ 情報化対応システム開発	2,016,106	1,500,000	業務支援システム開発等
⑦ 学会ロゴの作成	-	500,000	創立25周年記念
3. 予備費	0	597,218	
4. 積立金（学会改革）*1)	4,500,000	0	
5. 次年度繰越金	422,218	0	
支 出 合 計	29,857,377	27,997,218	

*1) 参考：積立金をした年度

1990年度～1999年度 合計 31,000,000円
 2001年度 5,000,000円 2003年度 4,000,000円 2004年度 2,000,000円
 2007年度 5,000,000円 2008年度 4,500,000円 利息合計 344,636円
 累計（含：利息） 51,844,636円

第3号議案 会長，理事，監事，評議員の選任

正会員と名誉会員あてに、役員半数改選の選挙を公示し、2/20に投票を締め切り、3/3に開票した。その結果、つぎのように役員候補者が確定したので、提案する。

任期は定款第24条により、会長は2年(2011年度総会まで)、理事、監事、評議員は4年(2013年度総会まで)とする。

評議員については、選挙による選出5名のほか、定款第21条にもとづき、会長指名の評議員を加えた。ただし、*印は前任者の在任期間となるため任期は2年(2011年度総会まで)。

会 長 (1名)

1. 永野和男

理 事 (12名) (五十音順)

1. 赤堀侃司
2. 植野真臣
3. 清水康敬
4. 永岡慶三
5. 南部昌敏
6. 野嶋栄一郎
7. 前迫孝憲
8. 村川雅弘
9. 矢野米雄
10. 山内祐平
11. 山西潤一
12. 吉崎静夫

監 事 (2名) (五十音順)

1. 生田孝至
2. 近藤 勲*

評議員 (13名) (五十音順)

1. 池田 満*
2. 伊藤紘二
3. 浦野 弘*
4. 大谷 尚
5. 岡本敏雄
6. 加藤 浩
7. 久保田賢一
8. 鈴木克明
9. 園屋高志
10. 高橋 純*
11. 中原 淳
12. 中山 実
13. 美馬のゆり

[参考]

留任理事 (12名) (五十音順, 2011年度総会まで)

1. 赤倉貴子
2. 大久保昇
3. 小柳和喜雄
4. 木原俊行
5. 黒上晴夫
6. 向後千春
7. 澤本和子
8. 三宮真智子
9. 東原義訓
10. 堀田龍也
11. 宮田 仁
12. 室田真男

留任監事 (0名)

非改選監事が理事に当選したため、該当無し。

留任評議員 (7名) (五十音順, 2011年度総会まで)

1. 石塚丈晴
2. 稲垣 忠
3. 黒田 卓
4. 長谷川元洋
5. 柳沢昌義
6. 野中陽一
7. 米澤宣義

2009年度 シンポジウムのご案内（最終報）

日 時：2009年6月20日（土）10:00～16:00（受付9:30より）

場 所：東京大学 福武ホール 東京都文京区本郷7-3-1

<http://fukutake.iii.u-tokyo.ac.jp/>

○都営大江戸線 本郷三丁目駅 徒歩7分 ○東京メトロ丸ノ内線 本郷三丁目駅 徒歩8分

○東京メトロ千代田線 湯島駅 徒歩20分 ○東京メトロ南北線 東大前駅 徒歩10分

参加費：500円（資料代）

申込方法：当日受付にて直接お申し込みください。

【午前の部：10:00～12:00】研究報告・ディスカッション（主として学会員向け。ただし非会員の方の参加も可能）

■テーマ 教育工学会重点3領域研究と今後の課題

■ねらい 日本教育工学会では2006年からの3年間、以下のような3つの領域の研究を重点項目としてとりあげ、課題研究や合宿研究会、シンポジウムなどのテーマとして奨励してきました。ここでは、この数年間の各領域における研究を振り返り、今後の課題を検討し、会員とともに議論したいと考えます。

■司 会 赤堀侃司（白鷗大学）

■登壇者 1. 新しいICT・教育システムの開発に関する研究 矢野米雄（徳島大学）
2. 高度で効果的な教育方法の開発と普及に関する研究 永野和男（聖心女子大学）
3. 教育工学研究・実践研究の体系化に関する研究 野嶋栄一郎（早稲田大学）

■指定討論者 中山 実（東京工業大学）

【午後の部：14:00～16:00】シンポジウム（会員及び一般参加者向け）

■テーマ 学力の評価について考える

■ねらい 国際レベルで実施されるPISAやTIMSS、全国レベルで実施される教育課程実施状況調査、全国学力・学習状況調査。そして、各地域や学校が独自に実施している学力調査など、様々な学力調査結果が教育現場や社会に示されています。これらのデータを生かすには、それぞれの学力調査が測定している学力を分析し、自らの教育や教育施策の成果と課題を把握して改善を図っていく継続的な検証・改善サイクルを確立することが必要です。そのことについて、教育工学が貢献できることや教育工学に期待されることについて議論を深めることで、実際に児童生徒への教育指導や学習状況の改善、教員の指導力向上と授業改善、学校運営の見直しに役立てるためのデータの分析法、活用法等を探ることをねらいとします。

■司 会 美馬のゆり（はこだて未来大学）

■登壇者 1. 学力評価を管理する立場として 田仲誠祐（秋田県教育庁）
2. 学力評価を分析する立場として 猿田祐嗣（国立教育政策研究所）
3. 比較教育から学力評価を研究する立場として 垂見裕子（お茶の水女子大学）
4. 教育工学から学力評価を研究する立場として 木原俊行（大阪教育大学）

■指定討論者 吉崎静夫（日本女子大学）

2009年度 夏の合宿研究会のご案内（第一報）

テーマ：「新学習指導要領における情報教育の役割」

日時：2009年8月22日（土）13:00～23日（日）12:00

場所：和歌山大学 教育学部講義棟

（交通アクセス <http://www.wakayama-u.ac.jp/navi/access.html>）

※ JR和歌山駅および南海電鉄和歌山市駅から路線バスあり。関西空港からJR和歌山駅までは、空港バスにて約35分。

※ 自家用車での入校可能（学内駐車場あり）

対象：学校教育に関わる実践者および研究者，学会関係者

参加費：研究会参加費1,000円（予定）※当日資料代を含む

（なお、「情報交換会」の参加費は別途徴収させていただきます。宿泊場所は和歌山市内にて各自ご手配をお願いいたします。）

日程：

【一日目】8月22日（土）13:30～ テーマ：「新学習指導要領における情報教育の役割(1)」

まず、「情報教育に関する手引」（平成2年）にはじまり、「情報教育の実践と学校の情報化～新・情報教育に関する手引～」(平成14年)を経て、今回の「教育の情報化に関する手引」はどのように変遷してきたのか、また変わらない本質的な部分はどういった点なのかを捉えます。そして、新しい学習指導要領や新・手引きの趣旨に対応した具体的な授業デザインをどうするべきかについて参加者相互に議論・検討したいと考えています。実際に手引きの作成に関わった研究者や、既に新しい視点を取り入れた授業を実践されている学校現場の先生方を招いて、活発な議論ができる研究会にしたいと思います。基調講演，ワークショップ，情報交換会，ナイトセッションを予定。

【二日目】8月23日（日）9:00～12:00 テーマ「新学習指導要領における情報教育の役割(2)－情報モラル指導に焦点を絞って－」

これまでの情報モラル教育に関する各種政策がどのように推進されてきたのか、関連して、「新学習指導要領」および「新・手引き」がどういった趣旨・意図を持って記述されているかを捉えます。その後、具体的な情報モラル授業実践事例の発表をもとにして、効果的な情報モラル指導のためのカリキュラム，授業設計・評価方法等について議論を深めたいとおもいます。最後に、これらの社会的・教育的なニーズに対応するための日本教育工学会が果たすべき役割について総括します。講演，パネルディスカッションを予定。

■問い合わせ先：夏の合宿担当 豊田充崇（和歌山大学）toyoda@center.wakayama-u.ac.jp

※詳細及び参加申し込みは6月以降に学会Webサイト等でご確認下さい。

日本教育工学会 第25回全国大会のお知らせ（第三報）

大会Webページ：<http://www.jset.gr.jp/taikai25/>

日本教育工学会第25回全国大会を、下記のように東京大学（本郷キャンパス）において開催します。現在、課題研究プロポーザルを受け付け中です。6月からは、一般研究/International Sessionの申込み、ワークショップのテーマ募集が始まります。どうぞ奮ってご応募ください。

1. 開催概要

期日：2009年9月19日（土）～21日（月）（3日間）
 会場：東京大学（本郷キャンパス）〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
 後援：文部科学省（予定）、東京都教育委員会（予定）

第1日 9月19日（土）	第2日 9月20日（日）	第3日 9月21日（月）
9:30～10:00 受付	9:00～ 9:30 受付	9:00～ 9:30 受付
10:00～12:00 一般研究発表1	9:30～12:30 一般研究発表3	9:30～12:30 一般研究発表4
12:00～13:30 昼食、各種委員会	12:30～14:00 昼食・理事会	12:30～14:00 昼食・
13:30～15:30 シンポジウム1	14:00～14:30 全体会	大会企画委員会
15:50～17:50 一般研究発表2	14:45～17:30 シンポジウム2	14:00～16:30 課題研究発表
18:00～19:30 ワークショップ	18:00～20:00 懇親会	
9:30～17:50 企業展示	9:00～14:30 企業展示	

2. 大会までのスケジュール

6月 1日	月	一般研究, International Session申込（原稿提出）受付開始
6月25日	木	課題研究発表申込書・プロポーザル（2～4ページ）提出締切
6月30日	火	ワークショップテーマ受付締切
7月 9日	木	課題研究発表の採否決定通知
7月16日	木	発表者の参加費事前送金締切（郵便振り込みの場合）
7月23日17時	木	発表者の参加費事前送金締切（クレジットカード払いの場合） 課題研究発表原稿、一般研究発表/International Session申込書・原稿（2ページ）提出
7月28日17時	火	提出原稿の差し替え締切（17時厳守。以降の原稿の提出は一切受け付けません。）
8月20日	木	発表者以外参加費等事前送金期限（郵便振り込みの場合）（以降の送金をご遠慮下さい）
8月27日	木	発表者以外参加費等事前送金期限（クレジットカード払いの場合）（以降の送金をご遠慮下さい）

3. ワークショップテーマ募集について

本大会では新たな試みとしてワークショップを実行委員会が中心となって開催します。このワークショップは、参加者が設定したテーマについてインフォーマルに語りあう場です。6月1日～30日にテーマを公募します。積極的なご応募をお待ちしております。応募方法等は、第二報をご覧ください。

4. 企業展示募集について

大会期間中、企業による製品等の展示も行います。出展、ならびに大会プログラム等における広告を募集いたしますので、ご希望の方は大会企画委員会企業展示ワーキンググループ（tenji@jset.gr.jp）へお問い合わせください。なお、出展・広告申し込みの第1次締め切りは、6月19日（金）です。

5. 大会全般の問い合わせ先

日本教育工学会 大会企画委員会 問い合わせ用電子メールアドレス：taikai2009@jset.gr.jp

日本教育工学会論文誌 特集号 論文募集

「学習・教育支援のための技術開発論文特集」のご案内（第一報）

現在、学習・教育支援システムの開発研究では、多様化する情報通信技術を基盤とした新たな学習・教育支援の模索、およびWebテクノロジー、データマイニングなどの新しいソフトウェア技術を取り入れた質の高い学習・教育支援の実現が試みられています。また、新しい技術開発だけでなく、既存の要素技術を見直し、新しい活用方法を見出すことも盛んに行われています。今後、こうした幅広いアプローチのもと、有用なシステムが数多く生み出されてくることが期待されます。そこで、本論文特集号では、学習・教育支援のための技術開発に焦点を当てた様々な視点からのシステム開発論文を中心に広く募集します。

1. 対象分野

- (1) 新しい学習・教育支援技術の設計・開発（Webテクノロジー、データマイニングなどの利用）
- (2) 学習・教育支援のための既存要素技術の新しい組み合わせや新しい活用
- (3) 学習・教育支援システムのためのユーザインタフェース構築（認知的アプローチも含む）
- (4) 学習・教育支援システム評価技術
- (5) 学習・教育支援システム運用技術（LMS、学習者認証、ポートフォリオ、インフラなど）
- (6) 学習・教育の質向上を目的とした要素技術・システムの開発
- (7) その他、学習・教育支援技術開発に関する研究

2. 募集論文の種類

通常の論文誌と同様に、「論文」「資料」「寄書」を募集します。投稿規程は通常の論文誌の場合と同じです。ただし、査読は2回限りとし、編集委員会が示した掲載の条件を修正原稿で満たさない場合は採録になりません。「ショートレター」として既に掲載されている内容を発展させ、「論文」として投稿することも可能ですが、単に分量を増やして詳細に説明しただけでは発展させたことになりませんので、ご注意ください。

なお、本特集号の対象分野外の論文が投稿された場合は、一般論文として扱うこととなりますので、あらかじめご了承ください。

3. 論文投稿締め切り日（2010年11月発行予定）

投稿原稿を2月8日までに電子投稿をお願いします。ただし、2月15日までは、論文を改訂することができます。締め切りの延長は行わない方針です。

投稿原稿提出締め切り（電子投稿）：2010年2月 8日（月）

最終原稿提出締め切り（電子投稿）：2010年2月15日（月）

4. 論文投稿の仕方

原稿は、「原稿執筆の手引」（<http://www.jset.gr.jp/thesis/index.html>）に従って執筆し、学会ホームページの会員専用Webサイトから電子投稿してください。郵送による投稿は受け付けないことになりました。

5. 問い合わせ先

電子メール：tokushu2010@jset.gr.jp

Tel/Fax：03-5740-9505 日本教育工学会事務局

6. 特集号編集委員会

委員長：柏原昭博（電気通信大学） 副委員長：渡辺健次（佐賀大学）

幹事・委員：依頼中

日本教育工学会主催「FD研修会&ワークショップ」 報告 — 多人数の講義で学生が主体的に参加できる自律的学習の実現に向けて —

本学会主催の「FD研修会&ワークショップ」が3月29日(日)10:00~17:30まで、東京の聖心女子大学を会場に実施されました。参加者は40名で、北海道、秋田、新潟、東京、横浜、千葉、富山、静岡、大阪、奈良、福井、広島、鹿児島より参加され、昨今の大学FD研修への関心の高さがうかがわれました。

今回のワークショップは、学会のFDワーキンググループで企画を検討し、テーマを「多人数教育の授業設計と管理 — 多人数の講義で学生が主体的に参加できる自律的学習の実現に向けて —」と設定し、講師として京都教育大学名誉教授で現在NPO法人「学習開発研究所」代表の西之園晴夫氏を講師としてお迎えし、講義を聴くだけの研修会ではなく、実際に参加者でチームを編成し、多様な学習者が主体的に参加できる自律学習をワークショップ形式の演習活動として行いました。

今回は新しい試みとして、受講すれば修了証がもれなくもらえるという従来型の研修ではなく、受講者が研修後の自分のlearning outcomeをレベル設定し、研修一ヶ月後のレポート提出により、そのレポートが評価され、レベルAAとレベルAの受講者にのみ日本教育工学会認定のFD研修会修了証が授与されるというシステムで実施されました。

本学会FD特別委員会委員長の永野和男氏の挨拶、西之園晴夫氏の講義「協調自律学習はどのように開発されたか — シンボリック設計法 —」の後、受講者がチーム編成を行い、40名が8チームに分かれ、ガイドブックに従い、チーム学習を開始しました。学習開発研究所の望月紫帆氏がファシリテーターとなり、各チーム内でのアイスブレイキングを実施されました。滋賀大学の宮田仁氏の指導で携帯電話対応コメントカードシステムを活用して、「多人数教育で私が抱えている問題」のコメントとビジョンの共有の演習活動を行った後、学習者が主体的に活動することとMACETOモデルを自分の講義に適用する演習を行いました。WGの中山実氏にも終日お世話になりました。受講者の感想としては「多人数授業がうまくいかない理由を、学生の資質にしがちであるが、実は綿密はインストラクションや計画(MACETOモデル)が用意されていなかったことに大きな原因があるのではないかと理解できた」「授業改善の方法を異なる大学の教員がグループで協働して学びあうことが有意義だった」などがありました。



文責：宮田 仁（滋賀大学）

■正会員 20名

加藤 大介
西崎 博光 (山梨大学)
佐藤 美奈子 (三育学院大学)
藤本 忍
楠神 健 (JR東日本研究開発センター)
CHO KUYBOK
(Education & Research Information
Service/Researcher)
篠 政行 (駒沢女子短期大学)
末本 哲雄 (金沢大学)
花木 喜英
(株式会社レビックグローバル)
木村 寿雄
(埼玉県立総合教育センター)
堀田 貴之 (伊方町立瀬戸中学校)
中川 博満 (京都産業大学)
向谷 博明 (広島大学)

高木 悟 (早稲田大学)
飛弾 信崇
(株式会社ベネッセコーポレーション)
星 孝
家島 明彦 (島根大学)
西村 泰弘
大橋 恵 (東京未来大学)
林 容市 (千葉工業大学)

■学生会員 15名

渡邊 文枝 (早稲田大学人間科学部)
土橋 勇哉 (東京農工大学工学部)
Pavasajjanant Natcha
(兵庫県立大学大学院)
鶴田 利郎 (大阪教育大学大学院)
宮 関 (神戸大学大学院)
山下 真由 (大阪教育大学大学院)
林 秋好 (神戸大学大学院)

常川 真央 (筑波大学大学院)
小西 亮介
(慶應義塾大学総合政策学部)
土山 伸
(北陸先端科学技術大学院大学)
荻本 加奈子 (日本女子大学大学院)
鈴木 雅之 (東京大学大学院)
菅谷 充 (早稲田大学大学院)
叶 少瑜 (お茶の水女子大学大学院)
甲斐 晶子 (熊本大学大学院)

■准会員 5名

高桜 陽子
長友 貴行
人見 浩作
志賀 靖子
内田 愛 (富士常葉大学保育学部)

学会日誌

2009年

6月20日(土) 通常総会及びシンポジウム (東京大学)
6月24日(水) ニューズレター 166号発行
7月4日(土) 研究会「教科教育学と教育工学の交差点」(宮崎大学)
8月22日(土)～23日(月) 夏の合宿研究会「新学習指導要領における情報教育の役割」(和歌山大学)
9月9日(水) ニューズレター 167号発行
9月19日(土)～21日(月) 第25回全国大会 (東京大学)
10月14日(水) ニューズレター 168号発行
10月24日(土) 研究会「ICT活用の授業研究と教師教育」(信州大学)
12月9日(水) ニューズレター 169号発行
12月19日(土) 研究会「FDの組織化・大学の組織改革」(京都外国語大学)

2010年

3月6日(土) 研究会「教育実践を指向した学習支援システム」(広島大学)
5月15日(土) 研究会「情報モラル教育・ネットいじめ対策」(北教大旭川校)

お問い合わせ先 (Eメールアドレス)

- ◆ 論文投稿に関するお問い合わせ…………… 編集委員会 (editor@jset.gr.jp)
- ◆ 研究会の開催についてのお問い合わせ…………… 研究会事務局 (study-group-core@jset.gr.jp)
- ◆ 全国大会の開催についてのお問い合わせ…………… 大会企画委員会 (taikai2009@jset.gr.jp)
- ◆ ニューズレター編集に関するお問い合わせ…………… 広報委員会 (kouhou@jset.gr.jp)
- ◆ その他のお問い合わせ…………… 学会事務局 (office@jset.gr.jp)

広報委員会

編集長：清水康敬，広報委員長：赤倉貴子，広報副委員長：宮田 仁，
委員：矢野米雄，伊藤剛和，香山瑞恵，神月紀輔，皆川 武，三輪吉和
E-mail : kouhou@jset.gr.jp

日本教育工学会ニューズレター No. 165

2009年05月31日 発行人 赤堀侃司
発行所 日本教育工学会事務局
〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル
TEL/FAX : 03-5740-9505 E-mail : office@jset.gr.jp
http://www.jset.gr.jp/ 郵便振替 00180-2-539055